



## 旧街道・町歩き みどころ

**姫** 路から三木を経由して、湯の山（有馬温泉）に通じる旧街道です。戦国時代に入ると、三木合戦の最中には羽柴（豊臣）秀吉や弟の秀長、軍師の竹中半兵衛もこの街道を通ったと考えられます。秀吉は、この街道を通じて有馬の湯を汲んできて、兵卒のけが人を安福田の野風呂で療養させたと伝えられます。

江戸時代には、参勤交代や西国からの湯治客が往来しました。湯の山街道には古民家などが今も点在し、虫籠窓やうだつ、舟板壁といった昔の風情を感じさせてくれるものが残っています。また、三木合戦に関する史跡をはじめ、別所長治の金天目茶碗（雲龍寺）や秀吉ゆかりの小袖や蒔絵箱（本長寺）、秀吉の制札（本要寺）が今も残されています。



湯の山街道の「虫籠窓」



湯の山街道の「うだつ」



湯の山街道の「舟板壁」

# 街道をゆく

長治公、そして秀吉に愛され、染形紙・大工道具・金物の町へと  
変遷してきた城下町・播州三木



## 三木市周辺の戦国旧跡めぐり

**竹中半兵衛の墓**  
美濃出身の軍師・竹中半兵衛は三木城攻防戦の最中に病没しました。白い練り壁に囲まれた墓所が整備され、地域の人々により守られています。

毎年7月13日に法要が営まれる

**秀吉本陣跡**  
天正6年、織田信忠が築いた陣地を秀吉が引き継ぎ、三木城攻めの本陣とした付城。秀吉が“初めて本格的な茶会を催した場所”とも伝わる。

山上から南西側に三木城を望める

**法界寺**  
天正8年、三木城攻めに敗れ自刃した別所長治公の遺骸が葬られたと伝わる寺院。毎年4月17日に、三木合戦を絵物語にした大幅掛け軸を解説する「絵解き」が行われます。

**谷大膳の墓**  
秀吉軍の豪将として三木城攻めで重要な平田陣営を担った谷大膳の墓。天正7年、別所・毛利の軍勢の夜襲を受け、奮戦の末に戦死しました。その位牌は金剛寺に納められています。

**淡河弾正の墓**  
淡河弾正は別所氏ゆかりの淡河城主。兵糧補給ルートを巡って秀吉軍と対峙した際、“雌馬を放って敵の雄馬を混乱させる”奇襲策で秀吉軍を退けた逸話が残る人物。



### 車利用の場合

- ▶大阪から山陽自動車道三木小野ICまで約60分
- ▶神戸・三宮から新神戸トンネル経由で約40分
- ▶姫路から東播磨道八幡三木ランプまで40分

### 鉄道利用の場合

- ▶神戸電鉄新開地駅（粟生線）から三木駅まで約45分
- ▶JR加古川線厄神駅から神姫バスで三木駅まで約20分

### バス利用（神姫バス）の場合

- ▶神戸三宮から約60分
- ▶明石駅から約40分

### お問い合わせ・連絡先

一般社団法人  
三木市観光協会  
TEL. 0794-83-8400  
<https://www.mikishi-kankou.com/>



三木市  
産業振興部 観光振興課  
TEL. 0794-82-2000  
<https://www.city.miki.lg.jp/>



▶長治公とともに三木城下町を巡るリアル謎解きゲーム  
開催中



兵庫県  
三木  
Miki City



01 国登録有形文化財  
旧小河家別邸・旧小河氏庭園

明治から大正にかけて初代郡会議員・三木町長などを務め、三木銀行の設立にも尽力した政治家・実業家の小河秀太郎が明治末期に別荘として造営したものです。建物は当時の技術や材料の粋を集めた近代和風建築で、庭園も高い技術と意匠を備えた池泉回遊式庭園です。(月～水曜日休館)



県指定名勝に指定された庭園

正面入口より表門に続く石畳



旧玉置家住宅の台所

02 国登録有形文化財  
旧玉置家住宅

文政9年(1826年)に建てられた母屋2棟と土蔵が残っており、当時は今の紙幣や小切手、商品券にかわる切手札と金銀を交換する切手会所として開設されました。(火曜日休館)

03 国登録有形文化財  
稲見酒造

高級酒米「山田錦」の生産量・質とも日本一を誇る三木市で、現存する唯一の造り酒屋。街道に面して建つ店舗兼主屋は間口が広く、重厚な外観は地域の歴史的景観の核となる町家。新酒の完成を知らせる杉玉が玄関に飾られます。



志るしの杉玉



国登録有形文化財の金物卸商黒田清右衛門商店が並ぶ街道

前挽鋸看板

金物に関する貴重な資料や金物製品を保存・展示

東経135度の子午線が通っているのは、兵庫・京都・和歌山の3府県内の計12市だけで、これらの地域では、正午に太陽がちょうど真南にきます。

子午線塔時計台



04 三木鉄道ふれあい館

廃止された旧三木鉄道三木駅が、平成22年春、地域の交流拠点として生まれ変わりました。三木鉄道(旧国鉄を含む)で使われてきた物品や写真展示などで、鉄道を懐かしむ空間となっています。(月・木曜日定休)

05 市立みき歴史資料館

三木の古代から現代までの貴重な歴史資料を展示しており、「みき歴史・美術の杜 みゅーじあむ」のインフォメーションとしての役割を持ち、歴史イベントの開催など、三木の歴史や文化を発信しています。(月曜日・祝日の翌日休館) ※月曜日が祝日、祝日の翌日が土・日曜日の場合は開館



06 国史跡 三木城跡

天正6年(1578年)別所長治のとき、織田信長と戦い、信長の家臣・羽柴(豊臣)秀吉や弟の秀長らの大軍に包囲されて兵糧攻めに遭い、天正8年1月17日に城主の長治ら一族は自刃して三木城を開城しました。その後、江戸幕府による一國一城令により元和元年(1615年)に廃城となりました。現在は本丸跡の中心部が公園になり、長治公の歌碑や石像が建っています。



別所長治公辞世の歌碑